

日 時	2026年7月10日（金） 09時15分（受付完了）
集合場所	六実スポーツ広場 <役員が旗を持ち誘導します。> ※1 アクセス 東武アーバンパークライン 六実駅から 徒歩7分 ※2 駅内トイレは、上りホーム前方(柏方面)です。

（コース） 六実スポーツ広場 ➡ 六実桜まつり碑(さくら通り入口) ➡ <鮮魚街道> ➡ 高龍神社 ➡ 野馬除土手碑(木戸遺構) ➡ <白馬公園> ➡ しいの木公園(休憩) ➡ 野馬除緑地(レリーフ) ➡ 高柳駅 <流れ解散 12時頃を予定>

野馬除土手(のまよけどて)

徳川幕府は軍役馬の養成や荷役用の駄馬を供給するため、下総台地の内陸部一帯に『下総牧』とよばれる放牧地を築いていた。この下総牧は小金牧と佐倉牧の二牧に大別され、さらに小金牧は、庄内牧、高田台牧、上野牧、中野牧、下野牧、印西牧の六牧に分かれていた。牧馬の逃亡を防ぐため外側に堀を掘り、掘った土を盛上げて土手としたものが野馬除土手で、幕末の記録には総延長150kmに達したとある。 小金牧と佐倉牧は明治時代になると廃止され、東京からの移住者や近隣農家の人々によって開拓された。開拓地は、開拓した順番と縁起の良い字を組み合わせで地名が付けられ、最初の開拓地は、初富(はつとみ)、二番目は二和(ふたわ)、三番目は三咲(みさき)と付けられ、四番目以降は、豊四季(とよしき)・五香(ごこう)・六実(むつみ)・七栄(ななえい)・八街(やちまた)・九美上(くみあげ)・十倉(とくら)・十余一(とよいち)・十余二(とよふた)・十余三(とよみ)の13まである。

鮮魚街道(なまかいどう)

江戸時代には川を使った水運が栄えており、鮎子沖で獲れた魚は夕刻に鮎子を出発し、翌朝に布佐河岸で陸揚げされ、金ヶ作を通り松戸河岸まで馬で運ばれていた。そして再び、船で行徳を経て夕方から夜に日本橋に着き、翌朝のセリに出されていた。この陸送路を鮮魚街道(なまみち)といていた。

高籠(たかお)神社 「日本武尊命」、「龍蛇神」及び「高麗ノ命」の三つの神が祭神として祀られている。

野馬除緑地 史跡「野馬除土手」壁面に「馬群」を配した記念レリーフがある。



下 見	2026.06.01（月）☀ 上杉・地福・田中・荒木
班編成	1班<老大19～市大12期> 2班<市大13～22期>
誘 導	1列目：2班<上杉(先頭)・荒木・宇内・吉田> 2列目：1班<地福(先頭)・宮津・加藤> ◎前後監視<原> ◎ 最後尾<田中> 船橋市いきいき同窓会「歩こう会」